



# Newsletter

No. 20 December 31 2015

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

## 特別寄稿

### 「ジョイント・ディグリープログラム調印式出席にあたり」

東京医科歯科大学(以下、TMDU)とのジョイント・ディグリープログラム(以下、JDP)を構築する中、私は様々な貴重な経験をすることができました。

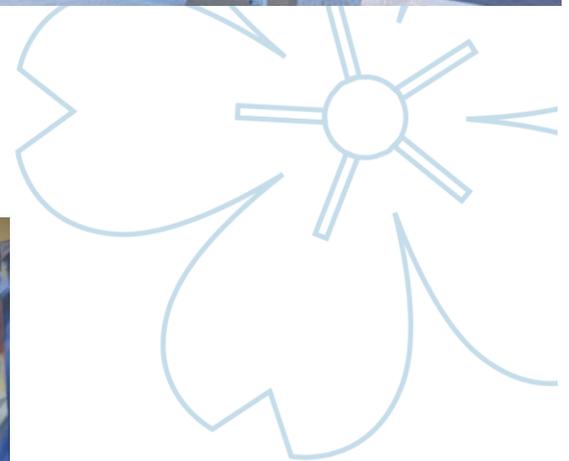
まず、我々のカウンターパートであるTMDUと、JDPの基本概念から逸れないよう細心の注意を払いながら取り組んできたこれまでの作業は、今までに経験したことがないほど慎重なものでありました。

この一年半の間、毎月開催されるテレビカンファレンスや3度にわたるチリ及び日本での会談を通して、特に、北川昌伸教授(友情の意を込めて我々はマサと呼んでいます)とは深い信頼関係を構築することができました。

このプロジェクトの重要性を理解し、学術的・経営戦略的な数々の問題に対し、解決に向けて揺るぎない支援を続けてきたチリ大学諸機関(学長室、医学部長室、大学院執行部)、そして、2007年からTMDUとの関係を築き上げてきたフランスコ・ロペス医師率いるクリニカ・ラス・コンデス(以下CLC)の大腸肛門科チーム、CLCアカデミック部門及びCLC経営陣、そして何とんでも我々のカウンターパートであるTMDUの執行部、特に日本側においてJDP推進の礎を築いてくださった大山喬史前学長及び吉澤靖之現学長、江石義信医学部長と、同じ目標を持つ全ての方々の支援を受け足並みを揃えることができました。

これまでの期間に培ってきた経験は、チリ大学の未来を描くうえで実に価値のあるものになると確信しております。

チリ大学医学部国際交流課部長 ミゲル・オライアン教授



**LACRC** TMDU IN CHILE  
Latin American Collaborative Research Center  
Santiago de Chile



## Contents

特別寄稿 .....	1
JDPプログラム .....	2
PRENECの進捗状況 .....	4
学生ポスター受賞 .....	7

# ジョイント・ディグリープログラム

国立大学法人東京医科歯科大学は、海外の大学と連携し共同で大学院教育を行い、連名で一つの学位を授与するジョイント・ディグリープログラムを開設します。このプログラムは、文部科学省により平成27年6月15日付けで日本で初めて設置が認められたことから、平成28年4月からチリ大学、平成28年8月からチュロンコン大学と、それぞれ大学院博士課程においてジョイントディグリーの専攻を立ち上げ、学生受入れを開始いたします。

## ジョイント・ディグリープログラム調印式

「ジョイント・ディグリープログラム開設に関する協定」を締結するにあたり、本学の国際化における取組について国内外に広く情報発信することを目的として、チリ共和国、タイ王国の関係者を本学に招き、合同調印式及び記者会見を開催いたしました。

本調印式には、本学、チリ共和国からチリ大学とクリニカ・ラス・コンデス病院、タイ王国からチュロンコン大学の関係者、及び来賓として在東京チリ共和国大使館ベッカー公使参事官、在東京タイ王国大使館タンサクン公使、文部科学省常盤高等教育局長をはじめ多くの方々にご臨席賜り、つつがなく執り行われました。

当該プログラムは、グローバル人材育成の観点から、国際的リーダーに成り得る高度な専門的医療人、すなわち臨床医学・医療の本質を理解したプロフェッショナルであると共に研究者としての視点・資質をも有する人材育成を目的として開設されました。本学が「世界に冠たる医療系総合大学」を目指し、更なるグローバル化の推進を図る上での一助となり、また本学と関係各機関との更なる相互発展が期待されます。



ジョイント・ディグリープログラム開設に関する協定 合同調印式 於：東京医科歯科大学 平成27年11月26日



調印式の際、両大学学長とCLC、来賓の方々と記念撮影



吉澤学長を囲んでチリ側関係者と記念撮影



挨拶をする本学吉澤学長



調印式における会談の様子



チリ大学ビバルディ学長によるスピーチの様子



CLCのCEOグレベ氏によるスピーチの様子

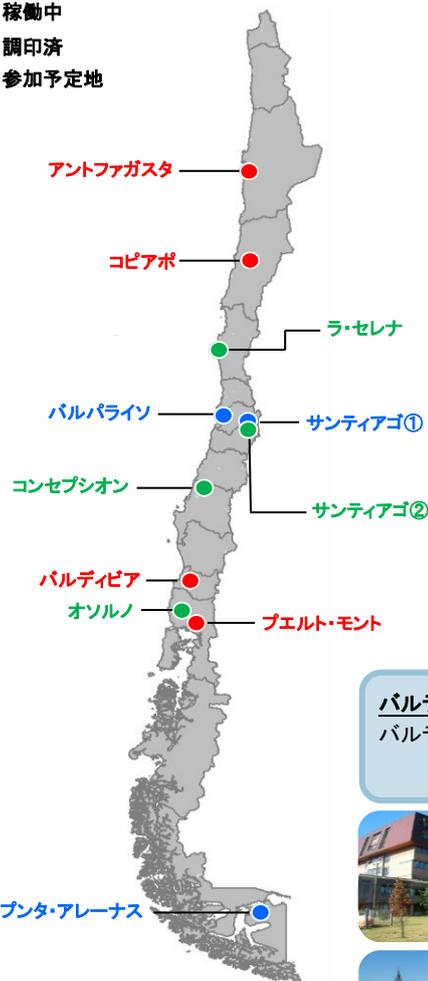
# PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。現在、バルパライソ、プンタ・アレナス、サンティアゴの3都市において免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)を用いた検診プログラムが進行しておりますが、今年11月にサンティアゴのチリ国立がん研究所が拠点施設として正式にプロジェクトに参加する協定が同施設とCLC間で結ばれました。

さらに、来年3月からコンセプションのグラント・ベナベント病院にてPRENECの開始が決定しており、チリ全土への拡大にむけて前進しております。

## 新たな拠点病院を増やし、大きく前進

- 稼働中
- 調印済
- 参加予定地



**プンタ・アレナス** ●  
マジャネス病院  
2012年5月 開始

**バルパライソ** ●  
ペレイラ病院  
2012年6月 開始

**サンティアゴ** ● ①  
サン・ボルハ病院  
2013年6月 開始

**コンセプション** ●  
グラント・ベナベント病院  
2016年3月 開始予定

**サンティアゴ** ● ②  
国立がん研究所  
2016年3月 開始予定

**オソルノ** ●  
サン・ホセ病院  
2014年1月 調印

**ラ・セレナ/コキンボ** ●  
サン・パブロ病院  
2014年1月 調印

**バルディビア** ●  
バルディビア病院

**プエルト・モント** ●  
プエルト・モント病院

**コピアポ** ●  
サン・ホセ・デル・カルメン病院

**アントファガスタ** ●  
グスマン病院



## バルパライソにおける記念式典

2012年に開始したバルパライソでのPRENECが3年目を迎え、さらなる強化を目指し11月17日ペレイラ病院にて記念式典が開催され、LACRCより小田柿助教、山中係員が出席しました。、その他政府関係者も出席する中、本学の支援に関し感謝の意が示されました。

また、現地医師では治療困難なPRENEC患者が40件以上も待機していることから、今後小田柿助教がバルパライソで指導・援助にあたることとなり、早急な実現に向けて式典後に同病院にて入念な施設見学及び打ち合わせが行われました。



Me gusta Compartir Tweet

18 de noviembre de 2015

Lanzan campaña anual preventiva de cáncer de colon y recto en la Región de Valparaíso

保健省ホームページ掲載写真

「バルパライソにて毎年恒例大腸直腸癌予防キャンペーン始動」



ペレイラ病院における施設見学・打ち合わせの様子

## チリ国立がん研究所、PRENECへ正式参加



握手を交わすグレベCEOとセルダ所長

Instituto Nacional del Cáncer（チリ国立がん研究所）がPRENECの拠点施設として正式にプロジェクトに参加する協定が本年11月30日、同施設とCLC間で締結されました。

CLCよりグレベCEOとロペス医師、チリ国立がん研究所よりセルダ研究所長、ストック内視鏡センター長、カブレラ看護師が出席されました。

2016年3月の開始に向けて同年1月にはPRENEC研修会が開催される予定です。

## 内視鏡講習会

12月17日から3日間にわたり中南米諸国の医師を対象としたCLC主催の内視鏡ワークショップが開催されました。チリだけでなく日本(麻生飯塚病院赤星先生、池田先生)やブラジルからも講師が招かれました。LACRCからは小田柿助教が参加し、「大腸内視鏡検査における注意点」に関する講義を行いました。また、ブタの胃を用いた内視鏡治療(ESD)のハンズオン(Hands-on)においてもインストラクターとして技術指導を行い、参加者は熱心に取り組んでいました。今後もこのような活動を通して中南米諸国の医師への指導を行っていきたいと考えています。



小田柿助教による発表の様子



小田柿助教による内視鏡指導の様子

## PRENEC論文が国際科学誌Cancerに掲載



学術誌Cancerオンライン版掲載記事より

本年10月、国際的な学術誌Cancer(キャンサー)に前赴任者である岡田卓也助教が、PRENECに関する論文「International collaboration between Japan and Chile to improve detection rates in colorectal cancer screening」を発表しました。

この論文では、2012年から2014年にPRENECで施行した大腸癌検診の結果と本学教員の指導効果を検討しました。

チリ人のみで施行した過去の大腸癌検診結果と本学が協力しているPRENECの結果を比較すると、大腸内視鏡検査の検査完遂率や大腸ポリープ・がんの発見率が大幅に改善され、がん発見率に関しては約5倍となりました。本学教員の指導が検査診断技術の大幅な向上に寄与したと考えられます。

11月26日にはチリ大学とのジョイント・ディグリープログラム調印式の際に本論文に関するプレスリリースが行われました。

(リンク先<http://www.tmd.ac.jp/archive-tmdu/kouhou/2015/1125.pdf>)

# 2014年度プロジェクトセメスター学生 ポスター受賞

本年10月に開催された第37回チリ泌尿器科学会にて、2014年度プロジェクトセメスター学生、CLC腫瘍学・分子遺伝学研究室に所属していた松本惇奈さんの研究テーマ「Detection of gene polymorphisms and the relationship with serum level of prostate specific antigen in Chilean patients」がポスター賞(共同受賞)第二位に選ばれました。

チリ泌尿器学会でのポスター受賞によせて  
医学科5年 松本惇奈

私は2014年度、プロジェクトセメスターの期間中にクリニカ・ラス・コンデスの泌尿器科において、サンチェス先生のもと前立腺癌のマーカであるPSAの値に変化を及ぼしうる遺伝子変異についての研究をしていました。

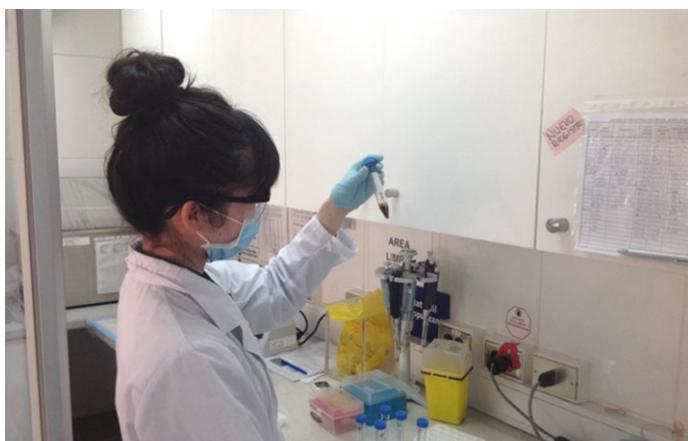
今回、わたしが携わった研究、Detection of polymorphisms related to seric PSA level in Chilean patientsが、チリの泌尿器学会でsecond place posterとして受賞したとのことで、とても喜ばしく思うと同時に、一部の研究を行ったことで名前を入れていただいたことを光栄に思います。資源の制限等はありませんでしたが、サンチェス先生は英語も堪能でディスカッションもしやすく、なにより研究室はこうして私を一員として扱ってくださる暖かい雰囲気の研究室でした。

チリでの半年間は私の考え方へも強く影響を及ぼし、人生の転機ともなり得る経験でした。チリ留学は価値観を一度壊され、視野を広げることができる、またとない、そして医科歯科でしかできない機会だと思います。

後輩にもぜひこの機会を活用してほしいと思っています。



チリでの最終発表の様子、担当教官サンチェス先生と



研究の様子

## 編集後記

早くも年の暮れとなりましたがチリでは1月から2月までの間バケーションシーズンに入ります。クリニカラスコンデス(CLC)ではこの時期を利用して、この度外来診療部門の整備目的で各部署の大幅な引越しをすることとなりました。これにより当LACRCオフィスもCLC内EDIFICIO AZUL地下一階へ移転の予定です。新しい年、新しい環境で気持ち新たに今後もLACRCの近況を報告して参りますので、引き続き、ご愛読の程宜しくお願い致します。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点  
Latin American Collaborative Research Center  
Newsletter No. 20, December 2015

[発行日] 2015年12月31日

[制作] Latin American Collaborative Research Center  
Tokyo Medical & Dental University  
Clínica Las Condes  
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile  
Tel: (56-2) 2610 3780  
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp